

Title	新大学におけるセンターに寄せる想い
Author	長崎, 健
Citation	Fabrica. 32 巻, p.1.
Issue Date	2020
ISSN	
Type	Article
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学工作技術センター
Description	

Placed on: Osaka City University Repository

巻頭言

新大学におけるセンターに寄せる想い

工学研究科長 長崎 健（ながさき たけし）



所属：工学研究科 化学生物系専攻

専門分野：生体機能工学、医用材料工学

趣味：土佐文旦（高知特産柑橘）の栽培、ゴルフ、愛犬白柴との散歩

またしても想定外！？いや、想定はしていたが甘かった。COVID-19の影響により生活が大きく様変わりしている。変革が求められているといえ、2020年4月の大阪公立大学開学も目前に迫り、至る所で突貫作業が行われている。今我々は大きな変革を求められている。我々の研究教育において研究器具や装置の製作、工作に欠かせない学内施設も同様だ。市大では工作技術センター、府大では生産技術センターと呼ばれ多くの教職員学生がセンターのお世話になっており、教育研究活動を遂行する上で欠かすことのできない施設である。今回のコロナ禍においても、市大内でも医療破綻を防ぐべく学長みずから陣頭指揮にあたり、工学研究科でも医療用マスクに使用されるN95マスクの代替不織布探索を担当することになった。その際に不織布の微粒子捕捉性能を評価しなければならないが、マスクが枯渇する国内ではサプライチェーンの国内回帰等の動きのなかで、評価装置の入手も困難であり、化学生物系の五十嵐准教授や機械物理系の伊與田教授等を中心に自作装置の作製に取りかかることになった。最終的にはウイルス様ナノ微粒子の捕捉効率を正確に測定可能な装置の製作に辿り着くことができたが、工作技術センターの設備と職員の協力無くしては立ち行かない作業の連続であった。この一例からもわかるように工作センターは我々にとって必要不可欠な共用施設の一つである。杉本の施設は2019年に耐震対策の目的で2号館に移設されたガラス工作部門はそのまま継続運用される一方、機械工作部門は杉本と中百舌鳥キャンパスに現状設備が分割整備される予定である。中百舌鳥には工学部、農学部と理学部の一部そして大阪府立大学工業高等専門学校が設置予定でセンターの規模や機能も拡張されなければならない。中百舌鳥においても現在の杉本のように身近な先端高度モノづくりの拠点であることを切に願い、新しいモノづくりセンターに期待したい。